

令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立細谷小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 56人

② 算数 56人

5 留意事項

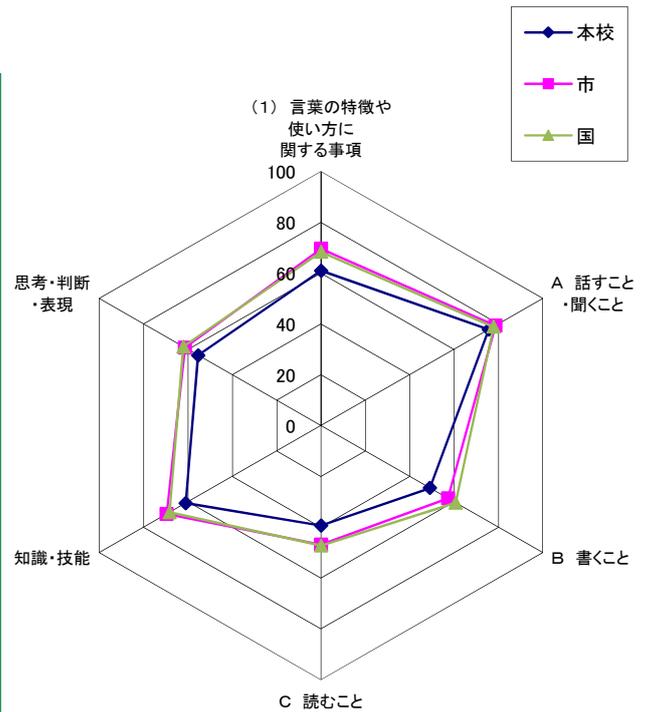
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立細谷小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	61.0	69.6	68.3
	(2) 情報の扱い方に関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	75.6	78.7	77.8
	B 書くこと	49.1	57.3	60.7
	C 読むこと	39.3	46.9	47.2
観点	知識・技能	61.0	69.6	68.3
	思考・判断・表現	55.4	61.4	62.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

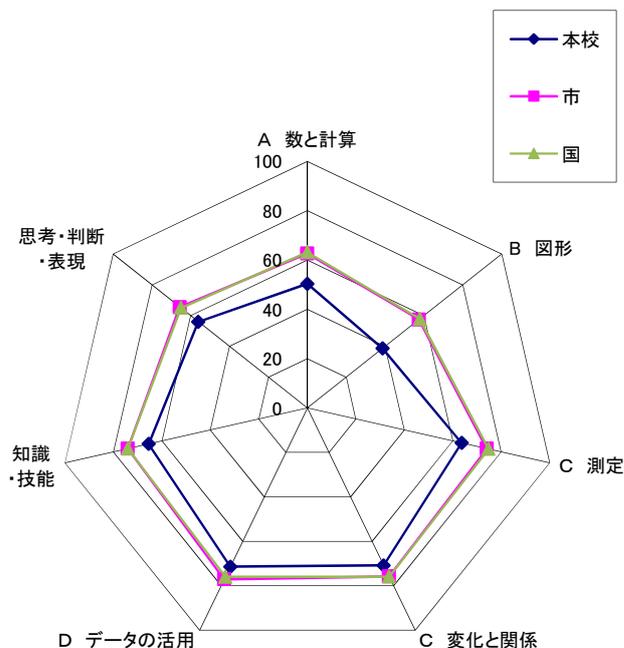
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	<p>平均正答率は61.0%で、国・市よりも7ポイント以上下回っている。</p> <p>○文の中における修飾と被修飾との関係を捉える問題では、県・国の平均正答率を上回っている。</p> <p>●学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題では、全ての問題で国・県の平均を下回り、かつ無回答率が県・国を5ポイント以上上回り、課題が見られる。</p>	<p>・漢字の読み・書きに関しては、漢字ドリルや漢字練習帳、ミニテストを活用し、基礎・基本の定着を図っていく。</p> <p>・文の中における主語・述語、修飾・被修飾の関係に関しては、文作りなどを取り入れ、活用できるようにしていく。</p>
A 話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は75.6%で、国・市とほぼ同じである。</p> <p>○目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える問題では、県・国の平均を上回っている。</p> <p>●目的や意図に応じ、資料を見て話す問題では、県・国よりも約6ポイント以上下回り、課題が見られる。</p>	<p>・朝の会や帰りの会を利用し、スピーチする場を設け、意図的に話す機会を設定する。</p> <p>・話し合い活動では、司会の役割を交代で与えたり、質問する場を意図的に設けたりして、目的に応じて自分の考えをまとめられるようにする。</p>
B 書くこと	<p>平均正答率が49.1%で、国・市よりも8ポイント以上下回っている。</p> <p>●文章の下書きの構成についての説明として適切なものを選択する問題では、県・国よりも、12ポイント以上下回り課題が見られる。</p> <p>●目的や意図に応じて、理由を明確にししながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して書き直す問題では、県・国よりも8ポイント以上下回り、課題が見られる。</p>	<p>・自分の主張が伝わるように文章全体の構成や展開を考えることができるように、文章を書く時には、構成メモや下書きのポイントを示し、書くことを整理する機会を多く設けていく。</p> <p>・友達同士で、書いた文章を読み合い、質問したり感想を伝え合ったりする活動を取り入れ、お互いを高め合っていく。</p>
C 読むこと	<p>平均正答率が39.3%で、国や県よりも6ポイント以上下回っている。</p> <p>○文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する問題は、県・国の平均正答率を上回っている。</p> <p>●資料を読み、必要な情報や中心となる語や文を見つけてまとめて書く記述式の設定問の正答率が低く、無回答率は10%を超えており、課題が見られる。</p>	<p>・読書をする機会を増やし、様々な分野の読み物に触れるようにしていく。</p> <p>・文章を読んで考えたことを書き表したり話し合ったりする場を設定し、自分の考えを深められるようにしていく。</p> <p>・物語文では、登場人物の関わりや心情を表す描写を押さえながら読み取り、中心人物の心情の変化を捉えられるようにしていく。</p>

宇都宮市立細谷小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	50.4	62.6	63.1
	B 図形	38.7	57.5	57.9
	C 測定	63.7	74.1	74.8
	C 変化と関係	70.8	75.8	75.9
	D データの活用	71.4	77.1	76.0
観点	知識・技能	65.5	74.1	74.1
	思考・判断・表現	56.1	65.6	65.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<p>平均正答率は50.4%で、国・市よりも12ポイント以上下回っている。</p> <p>●求め方を式や言葉で書く記述式の設問の正答率が低く、課題が見られる。</p>	<p>・自分の考えを、文章や言葉、式で表し、発表する機会を増やすことで表現力を伸ばすとともに、自らの考えのよさに気づき、自信をもつことができるようにする。</p>
B 図形	<p>平均正答率は38.7%で、国・市よりも18ポイント以上下回っている。</p> <p>●直角三角形の面積を求める設問の正答率が23.2%で、国よりも30ポイント以上下回り、課題が見られる。底辺×高さ÷2の÷2を忘れてしまった児童が多い。</p> <p>●複数の三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方を図形の構成の仕方を捉えて記述する設問の正答率が39.3%で、県・国よりも7ポイント以上下回り、課題が見られる。</p>	<p>・三角形は底辺や高さの関係の理解を確実にしたり、求積のためにどの部分の長さを図る必要があるかを考えたりすることで、基本図形の面積を求める公式の理解を深め、活用できるようにする。</p> <p>・面積の公式は覚えるだけでなく、公式を作る過程を大切にできるようにする。</p>
C 測定	<p>平均正答率は63.7%で国・市よりも10ポイント以上下回っている。</p> <p>○午後1時35分から50分後の時刻を求める設問の正答率が94.6%とよくできている。</p> <p>●二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方を記述する設問の正答率が42.9%で県・国よりも19ポイント以上下回り、課題が見られる。</p>	<p>・日常生活の問題を解決するために、子どもにとって必要な場面に置き換えて考えてみたり、具体的な場面に対応させながら考えたりするようにする。</p>
C 変化と関係	<p>平均正答率は70.8%で国・市よりも約5ポイント下回っている。</p> <p>○500mを歩くのに7分間かかることを基に、1000mを歩くのにかかる時間を求めるの設問の正答率が89.3%とよくできている。</p> <p>●速さを求める除法の式と商の意味を問う設問の正答率が41.1%で県・国よりも約15ポイント下回り、課題が見られる。</p>	<p>・速さなど単位量当たりの大きさの表す意味について理解し、公式だけに頼らない指導をする。</p>
D データの活用	<p>平均正答率は71.4%で国・市よりも4ポイント以上下回っている。</p> <p>○棒グラフから、項目間の関係を読み取る設問の正答率が94.6%とよくできている。</p> <p>●帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述する設問の正答率が44.6%で県・国よりも7ポイント以上下回り、課題が見られる。</p>	<p>・複数のデータについて、全体と部分、部分と部分との間の関係を調べて、データの特徴や傾向を捉えることができるようにする。</p> <p>・複数のグラフを深く読み取ったり、分析したりすることを授業で大切にする。</p>

宇都宮市立細谷小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 「朝食を毎日食べていますか」についての肯定的回答の割合が90%を超えている。
- 「自分には、よいところがあると思いますか」について「当てはまる」と回答した児童が47.5%に達し、全国より10ポイント以上高い。
→本校研究課題でもある【自己有用感】につながる質問。今後も継続して児童のよいところを認め、褒め、さらなる向上を図りたい。
- 「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」について肯定的回答の割合が86.9%と全国平均より10ポイント以上高い。
→次年度、中学校に進学することを見据え、テスト勉強や家庭学習の定着をはかるためにも今後を継続して指導していく。
- 「学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」について「役に立つと思う」と答えた児童が78.7%と全国平均より、12.6ポイント高い。
→タブレット型パソコンを使った学習を行い、児童の意欲をさらに高めさせたい。
- 「5年生までに受けた授業で、学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考えを受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていましたか」について「伝えていた」と回答した児童の割合が、52.5%と、全国平均より18.7ポイント高い。
→6年の授業においても、話し合う場の設定を行い、自分の考えを伝えたり、相手の話をしっかりと聞く機会を増やす。
- 「5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間となっていましたか」について、「当てはまる」と回答した児童の割合が、55.7%と全国平均より16.2ポイント高い。
- 国語の授業についての質問において、肯定的回答の割合がほとんどの項目で、同等か全国平均を超えている。
- 「普段、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか」について4時間以上と答えた割合が20%を超え、全国平均より5ポイント以上高い。
→家庭と連携し、ゲームの時間について再度決まりを作ってもらえるよう話をする。
- 「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしていますか」について「全くしない」と回答した児童の割合が32.8%と全国平均より8.8ポイント高い。
→読書の宿題なども出し、本に触れる機会を設けるようにする。
- 「新聞を読んでいますか」について、「ほとんど、または全く読んでいない」と答えた割合が、80.3%と全国平均より9.9ポイント高い。
→児童の興味関心がありそうなニュースなどに授業でも触れるようにし、新聞に触れる機会を増やす。
- 「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」について「当てはまる」と回答した割合が23%と、全国平均より9.6ポイント低い。

宇都宮市立細谷小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
○互いに認め、励まし合い、学び合う学習の場の設定と学習形態の工夫。	○「学習の約束」を定着させ、友達の話をよく聞き、落ち着いて学習する環境を整える。 ○感染症対策をしながら、可能な限りペアやグループ学習で学び合いの場を確保する。	「学級の友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」という質問に対する肯定的な回答をしている児童は、93.5%とかなり高い。今後も意見を交流させる場を授業の中で意図的に設けていく。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・自分の考えを文章や言葉、式に表すことに苦手意識をもつ児童が多いことが分かる。	・自分の考えや意見もち、文章や言葉、式で表し、発表する機会を増やすことで、自らの考えのよさに気づき、自信をもつことができる指導の工夫	・授業の振り返り等で自分の意見や感想を文章で表し、それを発表する場を取り入れる。 ・自主学習の中に一言日記や一行感想文などを取り入れたり、文型の例を提示したりするなど、方法を工夫して、文章を書くことへの抵抗感を減らすとともに、要点をまとめた文章が書けるように繰り返し指導する。 ・友達同士で、書いた文章を読み合い、質問したり感想を伝え合ったりする活動を取り入れる。